

## 第2回松阪市環境懇話会

・開催日時 平成14年7月29日(月) 午後2時～午後4時30分

・開催場所 市役所 5階 特別会議室

・出席者 環境懇話会 座長：寺本博美

委員：高橋保幸、富田靖男、大西憲一、筒井弘佳

橋本英一、岩出 隆、花山初子、米田としゑ

佐藤智基、今井久晴、押田優子

総合政策部政策課 森主幹

(株) エステム 丸山、松田

事務局 環境課 吉川課長補佐、若山、吉田



### ・協議内容

はじめに事務局より市民・事業者アンケート調査業務に関して委託業者である(株)エステムの紹介があった。

**座長**「既設の事業と計画の方向。将来、松阪市がなくなってより広い行政区になる可能性もある。そういう部分も含めて、森主幹から新松阪市総合計画について説明してもらう。」

森主幹より新総合計画の説明。

(説明の概要)

概要図一時代の潮流 (P3)

少子化 松阪市では1.45と微微減少しつつある

地球共生時代

高度情報時代

分権・協働・連携の時代～市町村合併等の問題

松阪市の歴史と文化

松阪—城下町+商人の町

S 32 年前後に昭和の大合併を経て現在の松阪ができあがった。

太平洋国土軸から外れた場所にある—現状認識

どういった計画をつくっていくのか。

市民が主人公の市政

「歴史と文化のいきづく公園都市“松阪”」

松阪を公園のような都市にしたい。

公園とは—ありのままの自然ではないが、環境を無視したものでもない。

公園は手を加えない限りは維持できない。

今後の人口—MAX は 13 万人くらいであろう。計画としては、13. 5 万人。これは、このくらい的人数が暮らしやすいようにしようというものであって、決してこの数字にするというものではない。

持続可能な自立都市のデザイン

中心部のルネッサンス—再生— 歴史と文化の町づくり。中心部に人口を集中させる必要がある。

郊外部—アメニティの創出。郊外部における自然、文化環境の保存・整備。

都市の交通—動脈となる交通の問題。機軸は 23 号線、国道 42 号線 166 号線と都市計画道路との連絡。鉄道、バス、トラック、港湾をひとつに結びつけるような総合的な輸送。

ゾーンとネットワーク

中心ゾーン、産業ゾーン、居住環境ゾーン、自然共生ゾーン—P23 イメージ図

歴史・文化のネットワーク・アメニティのネットワーク

都市（まち）のビジョン

五つの“づくり”

1. 都市（まち）のくらしづくり
2. 都市（まち）のしごとづくり
3. 都市（まち）のゆとりづくり
4. 都市（まち）のまじわりづくり
5. 都市（まち）のしくみづくり

分野別の公共政策の展開

元気で活力ある“松阪”

生き生き“松阪”

快適で美しい“松阪”

誇りある人間都市“松阪”

安全で安心な“松阪”

交流と連携都市“松阪”

**座長**「市のイメージとして一番多いのは『自然環境が豊かな町』では、環境について問題はありますか？みなさんにとってどうなのか？この自然環境をどうやって持続させていくのか？松阪市の環境ということで考えているが、市域の40%が森林である。

『海から山が近い』これを活かすことが環境政策のひとつの方向性になるのでは？」

**富田委員**「新総合計画と第3次総合計画の違いは？今回の懇話会にあたって、松阪市のことをもっと調べておこうということで、第3次総合計画に目を通して見たが、自然環境のことはほとんど触れられていなかった。新総合計画でも自然環境についてはさらっと触れられているだけなのでちょっと不満である。新総合計画の基本構想の23ページにおける構造図にある櫛田川と阪内川を基本として、自然共生ゾーンが広がっているが、その構想を生かして基本計画を作っていきたい。基本計画は、どこも同じ

内容であることが多いが、本計画は松阪市の特色を十分に踏まえたものであり、新総合計画で触れられていなかった内容も加えることが必要。」

**森主幹**「新総合計画は、本来 13 年度からのスタートだったが、1 年暫定的に 3 次計画を延ばしたので、スタートしたのは今年度から。第 3 次総合計画の評価をしたうえで、内容は引き継いでいる。しかし、構成自体は大きく変わっている。計画は、環境の分野だけでなく産業の発展もどうするのかという考え方もある。」

**座長**「優先順位がつけられない。」

**富田委員**「だからこそ（環境基本計画は）総合計画にない、環境を重視した松阪市なりの計画をつくって欲しい。」

**押田委員**「環境に関しては、当然、松阪市だけの問題ではなく、全国的に取り組み考えていくことが必要。この問題は、行政ばかりに頼っては改善されないものであるから、自分たち一人ひとりの考えが大切であり、その意味においては基本計画もできるだけ多くの市民の意見を、アンケート調査などさまざまな手法を取り入れることが必要。NPO やボランティアとして活動している団体の意見も取り入れてもらって、総合計画も市民の意見を多く取り入れて計画を進めていただきたいと思う。」

**森主幹**「新総合計画をつくるにあたって、平成 10 年度から基礎的な研究をやってきた。平成 11 年度には、市民意識調査も行った。市民からの提案も往復はがきで 100 文字提案をしてもらうように呼びかけたところ、564 件の提案を受けた。それを庁内で 2 つの部会をつくって検討。平成 12 年度には、都市の環境・産業・教育など 4 つのテーマで市民委員会（それぞれ 20 人）を募集したが、応募者と 100 字提案で提案してもらった人や NPO の人にも声をかけて委員に加わっていただいた。このようにまだまだ足りないかもしれないが、市民からの意見はかなりいただいた。このような市民参画のスタイルは、他の計画策定に関しても取り入れられている。」

**今井委員**「そういうやり方をされていたことを自分たちは知らない。市民レベルに広がらないのは環境等に関心がないのが原因と思われる。町内の回覧版でまわしてはどうか？公民館などで環境について話し合える場をつくれれば関心を持ってもらえるのでは？」

**押田委員**「地元の人を巻き込んだ活動をして欲しい。」

**森主幹**「広報にも載せたとし、100 文字提案は各戸配布した。できるだけ市民を巻き込んだつもり。（それで「つもり」というのが役所のいけないところかもしれない

が。)今、テーマを投げかけるような生涯学習をしてはどうかと検討しているところ。」

**座長**「行政のやることに関心を持ってもらうためにどうしたらいいのかもっと工夫が必要。『Eデモクラシー』インターネットを通じて、それぞれの問題について自由に意見を述べる場所において、リーダー役がいてお互いに顔を合わさずに意見交換を行う方法をとっている自治体もあるが、そこに参加する方も限られている。環境の計画をつくっていくということは、ゴミの収集ひとつとっても、生活全体に影響を与えることになるので、できるだけ多くの方の意見をいただく必要がある。環境に興味を持ってくださいというだけではなかなか伝わらない。私たちの生活が、この条例、計画によってどのようにかわっていくのかということから関心を持ってもらうことが大切。」

**橋本委員**「今回、懇話会において新総合計画について取り上げていただきたいと要望をあげた一人。総合計画の中では、環境はどのポジションなのか?『他の都市が環境条例をつくっているから松阪市でも』というのではいいかげんなものになってしまう。」

**森主幹**「持続可能な都市として継続していきたい。それをバックボーンとしたつもりである。今後の活動は環境問題抜きにしては語れないと思う。それを審議会にあげたところ、産業界から反発があった。バブルよもう一度というのではないが、産業をもっと発展させることが、松阪の発展につながるのであって、松阪の経済政策が弱いのではないかという批判があった。文化・環境については、20年前と比較すると質・量ともに変化はあるが、なんで今ごろ環境問題をもってくるんだという意見もあった。そういうものではないと申し上げたがなかなか理解してもらえない。」

**橋本委員**「大きな計画の次に環境が優先順位が高いということでのいいの。すべての事業が環境問題と直結しており、環境への配慮がなくては、どんな事業も進められないということを再認識した。基本計画をつくるポジショニングしてはどうか。」

**座長**「経済が右肩上りというのは幻想で、経済はこれ以上よくなるのではない。そうであれば、大量生産、大量廃棄から限られた資源を有効的に使うライフサイクルへと転換することが必要。そういう意味においては、自然環境が中心にあり、その周りに福祉や産業、そして歴史・文化というものがある構図になるのでは。基本計画の中では、優先順位がでてきて、そこにいろんなアイデアがでてくると思うが、そのベースとなる大きなルール造りをしていく。」

**高橋委員**「市民意識調査において、自然環境がよい街というイメージに 65.6%の市民の方が『そう思う、ややそう思う』と捉えているが、市外から訪れた者にとっては、なぜ、松阪の自然環境がよいのか、どうしてこのような回答になるのか腑に落ちない。街中を見たときに街路樹が少なく、地方都市としてはむしろ緑が少ないのではないか？また、買い物に便利な街というイメージに 57.2%の方が『そう思う、ややそう思う』と捉えているのも、確かに自動車を持っている者にとっては便利かもしれないが、自動車をもたない者にとってはそうでないと思う。新総合計画と環境基本計画をどうやってすり合わせていくのか？」

**座長**「最初の環境についてのアンケートについては年齢構成等、もう少し細かいところでチェックしたらわかることもある。確かに、街の中に緑は少ないように感じる。東京という巨大都市においても実に緑が多い。おそらく、市民の方は、市域全体が公園都市であるというイメージなのではないか。街に公園をつくるつもりはないけれども、街を公園都市として考えると、まだ足りないところがあるということか。これも総合計画を推進する上において一つの課題。」

**橋本委員**「市への愛着と親しみも 80%以上の方が『強くもっている、ある程度強くもっている』と捉えている。ということは、あまり外に出たがらないということでもあり、松阪市民は昔から松阪に住んでいる人が多い町だからということに起因しているのでは。また、30年前にも同様の調査をした時も、同じような結果であることを考えると、周辺的环境はその時とあまり変わっていないのではないか。」

**富田委員**「アンケート調査については、松阪全体をみた結果であり、自然が多いと感じる人が多いのでは。しかし、身近に自然は少ないのではないか。」

**今井委員**「市街地における自然環境と、市域の自然環境は分けて考えるべきではないか。」

**森主幹**「良いイメージで 50%を超えたのがこの 2 つの設問だけで、それ以外は選ぶものがないということを受止めた。アンケート対象として、地域に偏りがないように分けた。80%の人が自分の住んでいる土地に愛着があるのに満足できると考えていないようだ。行政の満足度について普通だと捉えているようだが、満足が 3%、不満が 6% やや満足%が 15%、やや不満が 26% と不満が満足の約 2 倍になっている。愛着があっても行政には満足はいただけていないと受け止めた。」

### **アンケートの基本構想**

**座長**「基本計画策定に向けて、まず調査ありきと考えていたが、アンケート調査をいきなりやるのはどうか。懇話会の意見を入れた方がという意見が第 1 回の懇話会であ

げられた。皆さんの意見では一步突っ込んだ施策についての意見が多かったので、まず、新総合計画について勉強していただいて、次回からアンケートについて具体的な意見をもらおうと計画している。松阪市の特徴を生かすたというが、松阪市の特徴ってなんだろう？皆さんにお尋ねした結果をまとめた。検討材料を次までにエステムに作ってきてもらうが、松阪市についてどういうイメージを持っているのか？知らなくてはいけない。」

**富田委員**「松阪にどのような特徴があるのか知ってほしい。エコマップを提案する。来年1年かけて基礎調査を行い、このようなエコマップを作成し、どの地域の自然環境をどのようにしていけばよいのか。また、生かしながら増やしていけばよいのかを探るヒントにすべきものである。」

**座長**「エコマップは、今までなかったので今後あってもよい。『地域で一番困っているのは何か』を聞くのは重要。設問で加えたいものを早いうちにあげてもらって、それを参考にして設問を（エステム）につくってもらう。下水道ができると川の水位はどうなるのか？という質問のEメールがあった。そういうふうに市民の方は素朴に考えられる。ここでやっていることを広報等できちんと伝えなければならない。」

**米田委員**「広報は、あまり読まれていない。広報もなにかしら目に留まる対策をたてるようにしないと。地域の公民館等で話し合わないといけないのではないか。次の世代は環境づくりをしてくれるのか知りたい。」

**花山委員**「子どもたちに、このようなエコマップがあれば、自然と接する機会も増えるし、自然環境の大切さを教える教材にもなる。このようなエコマップが浸透していけばと思う。調べ学習—ごみがどうなっていくのか調べたりして、子どもが環境に目を向けるような活動ができた。将来に向けて子どもも理解できるような基本計画ができればと思う。」

**大西委員**「松阪の貴重な動植物といえば、まず大石不動院のムカデラン群落が思い浮かぶ。ここまで細かく詳しいマップは今までなかったのでは。機殿神社のミカドアゲハは、私が住んでいる近くということもあって、地域の方とミカドアゲハについて話したこともある。一方で、シーズンになるとミカドアゲハ収集のマニアが網を持って捕獲しに来るといった現実もある。このようなマップをPRするとともに、この自然環境を大切にするといったことも呼びかけていく必要がある。」

**佐藤委員**「このようなエコマップに載っているような動植物も大切だが、子どもにしてみれば、身近に親しめるような小川があることの方が大切であり、その点においては地域住民の努力で行うべきでは。」

**座長**「地域住民主導でこのようなことが進められれば素晴らしいことだが、各地域によっても環境に対する熱意が異なることから、学校単位で取り組むことが必要なのかなど。子どもたちを環境問題に含めていくには、子どもの意見を聞くことも大切である。」

**佐藤委員**「アンケートにしても意識のある人だけが参加している。このご時世、誰でも環境のことについては少しは考えるところがあると思うので、アンケートとかかしこまらないで、身近に意見箱みたいなものがあればいいと思う。」

**岩出委員**「啓発の仕方。環境に関するものの他にも、いろいろな啓発依頼として児童対象のポスターや作文の募集など200種類ぐらいある。（啓発の仕方）どのような形にしていくのか本当に難しい。いろいろな意見を入れるのは大切だと思う。市の将来のビジョンで暮らしやすいようにしたいという意見が多いということは、今はそうではないということなのか。」

**座長**「アンケート（結果）は行間を読むのが難しい。」

**筒井委員**「非常に幅が広く、全体を見るとぼやけてしまう。アンケートにおける設問は、どのようなことを聞いているのかはっきりさせたほうがよい。「わからない」という回答の仕方は必要であろうか？アンケートを通して環境について深く考えるようにして欲しい。そのためにも「わからない」という回答選択はないほうがよいと思う。」

**丸山（エステム）**「今回のご提案を盛り込んで次回までに、素案をあげさせていただきます。意見がきちんと帰ってくるような形で工夫して提示したいと思います。」

**橋本委員**「婦人会等でごみの処理について、松阪市は分別収集が進んでいるほうの市ではないかという意見もあるが、それぞれの家庭でどのように考えているかを調査で把握できるようにして欲しい。子供会等が休みに活動している地域がある。今までは新町では今日は「廃品回収」の日ですと言わせている。その言い方に「廃品処理」という意味合いが強い。地球環境についてどう考えているのか把握するような設問が欲しい。」

**押田委員**「レジ袋についても、設問として載せて欲しい。必要か、必要でないかという設問も」

**座長**「松阪市としてどうやっていくかという方向性や手段があるか、考える材料にしたい。」

次回のテーマ「環境に関する市民・事業者アンケート調査の素案について」



次回の開催日時 平成 14 年 8 月 26 日（月） 午後 2 時より

開催場所 松阪市役所 5 階 特別会議室